

2017 年度 生涯発達心理学 第 3 回授業のまとめ

ク ラ ス		学籍番号	
氏 名		講義日	講義回 第 3 回
<p>第 3 講</p> <p>エリクソンの心理社会的発達理論</p> <p>エリクソンは人間の誕生から死までを（ ①8 ）つの発達段階に分け、より包括的な立場から（ ②ライフサイクル ）を論じた。</p> <p>人生最初の段階である「乳児期」の課題と危機は「（ ③基本的信頼 ）」VS「基本的不信」であり、養育者との関係において安定した信頼関係を築くことが効力感の向上につながるとした。</p> <p>成人期では他者への援助に関心を向けるという「（ ④生殖性 ）」と、この課題を解決することができずにいると停滞感に襲われ自己耽溺という状態に陥る「（ ⑤停滞性 ）」という危機が現れるとした。</p> <p>エリクソン晩年、80～90 歳以上を念頭に置いた（ ⑥第 9 ）の段階に触れている。この段階ではその日その日を無事に過ごせることがすべての関心事となると論じている。</p> <p>ライフサイクルとライフコース</p> <p>レビンソンのライフサイクル論では中年期に転換期を迎えるとしているが、その背景として生物学的な変化よりも（ ⑦社会的発達 ）の反映と考えている。</p> <p>ライフコースとは主体を個人におき、人々が持つ（ ⑧役割 ）、経験する出来事、歴史的イベントなどを重視し、個人のさまざまな人生を明らかにしようとするものである。</p> <p>実際のライフコース研究では同じ時代に同じ地域に生まれた集団である（ ⑨コーホート ）に着目し個人資料をそれごとにまとめていくことが必要となる。</p> <p>中年期以降の発達に関する理論</p> <p>（ ⑩活動理論 ）とは、引退後の社会の中で活動的であることが老年期の幸福につながるという考え方である。</p> <p>死の受容のためには社会的な役割からの緩やかな離脱と社会的相互作用からの撤退が個人にも社会にも望ましいという考え方を（ ⑪離脱理論 ）と呼ぶ。</p> <p>トルンスタムの提唱した老年的超越は「社会的・個人的関係の領域」、「自己の領域」、そして「（ ⑫宇宙的領域 ）」の 3 つの領域から構成されている。</p>			